

## テーマ

ふるさとのよさ再発見～考えよう、語り合おう、行動しよう

事業実施地区（中学校区名）	斐川東中学校区
事業実施公民館等名 （中学校区内にある全ての公民館等）	出東コミュニティセンター 荘原コミュニティセンター

## テーマの背景

出東、荘原地区では、近年少子高齢化が進み、地域の活力が次第に乏しくなっている。特に出東地区においてその傾向が顕著である。また、地域の人々のつながりも希薄になり、個人主義的な価値観が強くなってきている。

このような状況の中、両地区では「ふるさと」をもう一度見直し、郷土のよさや課題を再発見しながら、地域住民が共に考え、語り合い、行動することによって、人々の絆やつながりを取り戻し、地域の活性化を図ろうとする企画である。

## 実際の取組

### ④ ふるさとの魅力や価値に気づき、理解を深める学びの場の設定

事業名：ふるさと講演会

#### <取組の概要>

郷土出身の映画監督錦織良成氏を講師に迎え、映画づくりに込めた「ふるさと愛」、多くの出会いや様々な体験等について語っていただいた。

(1) 対象：出東、荘原両地区住民（他の斐川地域住民も参加可能）

(2) 講演のポイント

- (ア) ふるさと魅力とふるさとへの想い
- (イ) ふるさととの関わり
- (ウ) 子どもの教育



#### <成果と課題>

講師の「ふるさとへの想い」や映画づくりを中心とした様々な体験談等を聴く中で、改めてふるさとのよさや大切さを再認識させられた。また、今後私たち住民が一層積極的にふるさとのよさや特徴を広く発信し、子どもから大人まで「ふるさと愛」深めていく必要性を痛感した。

子どもの教育については、今子どもたちにとって必要なことを学校、家庭、地域が、共通理解し一体となって実践していく必要がある。三者が今まで以上に連携を強化し、共通の目標に向かって、それぞれが役割を果たしていくことが求められる。

### ⑤ふるさとの「ひと・もの・こと」を次世代に伝え、守っていく活動の実施

事業名：新成人を祝う会

#### <取組の概要>

斐川東中学校を卒業し本年新成人となる若者と出東、荘原両地区の地域の各種団体の役員等が一堂に会し、地域の方々の手作りの企画で祝福した。小中学校の恩師との再会や昔の様子のスライドショーを行いながらふるさとの様々なことを伝え、ふるさとの未来について語り合うことによって、「ふるさと愛」を一層深めた。

(1) 対象：斐川東中学校卒業の新成人、地域住民

(2) 取組のポイント

- ア 新成人に対する地域の温かい想いが伝わること
- イ 地域の活動を新成人が理解する場であること
- ウ ふるさとの未来について語り合う場であること



#### <成果と課題>

##### 【成果】

- 1 会の企画を地域の役員と新成人の役員共同で行ったので、お互いの親交が深まった。
- 2 地域の方々の温かい愛情が新成人の心に深く届き、地域への感謝の言葉を多数いただいた。また、ふるさとへの愛情が一層深まったとの感想もいただいた。
- 3 久しぶりに会う同級生や小中学校の恩師との再会と語らいの場を提供することができ、大変有意義であった。
- 4 地域の各団体の絶大な協力態勢が確認でき、地域の今後の活動の活力の一助となった。

##### 【課題】

- 1 来年度以降確実に継続するための組織づくり

### まとめ

#### テーマに迫るためのポイント

1. 「ふるさと愛」を育むためには、先ず地域住民が地域の歴史文化等をよく知ることが第一である。
2. 「ふるさと愛」を育むためには、そこに住む大人が温かい気持ちを持ち、次世代の人々に行動で示すことが大切である。(言葉だけでは十分に伝わらない。)
3. ふるさとの歴史文化、伝統などを継続的に学ぶ場の設定が必要である。

#### 今後の展望

本年度の「公民館ふるさと教育推進事業」によって、中学校区の出東、荘原両コミュニティセンターが今まで以上に連携、協力して様々な事業を展開でき、大変有意義であった。

本年度行った事業は地域や参加者から良い評価をいただいております。来年度以降も工夫、改善しながら積極的に推進していく考えである。

また、学校との話し合いも一層深め、充実した継続的なふるさと教育を展開したい。